

健康に自信・職場に安心

健康のひろば



■ INDEX

- 会長就任のごあいさつ 2
(財)全日本労働福祉協会 会長 柳澤 信夫
- 国際NGO「国境なき医師団」に参加して 4
医師 西野 るり子
- 旗の台健診センターリニューアルのお知らせ 6
企画部 齋藤 弘
- 新企画 各地巡回健診先での
名所名跡、特産品の紹介コーナー 7
茨城県 牛久市
- 協会ニュース 8



会長就任のごあいさつ

(財)全日本労働福祉協会

会長 柳澤 信夫



このたび、本年4月より(財)全日本労働福祉協会の会長を拝命致しました。どうぞよろしくお願い致します。

私は長い間、大学で神経内科の教育や研究に従事してきました。神経内科は、脳卒中、パーキンソン病や認知症など高齢者の病気を対象にすることから、平成9年より国立長寿医療センター設立のために国立中部病院で高齢者医療の研究センターの拡充や、長寿医療の国際共同研究を英、米、独、スカンジナビア諸国と実施してきました。平成13年(2001年)国家公務員の定年で国立中部病院長を退官し、関東労災病院長となり、本年の3月まで6年半の間、勤労者の医療や疾病予防、労災疾病の研究や厚生労働省の各種検討会の仕事に従事してきました。

当協会の健診事業は、事業所の定期健康診断、特定の職場の健康リスクに対する特殊健診や環境測定を中心に実施してきましたが、本年度からは、政府の医療政策により特定健康診断、特定保健指導にも従事してまいります。

昨年報告書にまとめられた、厚生労働省の「産業医および産業医大のあり方に関する検討

会」においても、勤労者が「自分の健康は自分で守る」ための意識と行動習慣の形成が重視されました。我が国の社会保障の現状は、医療崩壊を余儀なくさせております。これは我が国の国民皆保険の模範とした英国で、1990年代のはじめにサッチャー政権の選んだ社会保障のカットバックとほとんど同じ経過であり、英国はその後のブレア政権の努力にもかかわらず、プライマリケアを除く、専門あるいは高度な医療を受ける機会は厳しく制限され、回復の兆しは見えません。我が国も同じ経過をとる危険性について、我々は10年以上前から機会を得て発言してきましたが、既に回復不能な、「ポイント・オブ・ノーリターン」を越えてしまいました。日本の状況を英国人に話すと、英国では医師が米国やオーストラリア、旧植民地に移住し、医師不足が深刻になったけれども、日本は医師が移住する先がないだけ、まだ被害は少ないだろうと言われます。

我が国で生活習慣病予防のための特定健診と特定保健指導が実施されることの本래の主旨は、自分の健康状態を一人一人が自覚して、生涯を通じての健康保持の習慣を身につける

ことにあります。これは正しい方向ですが、一方で政府は医療供給制限の対策として重視することから、実効を期待して、有所見者に指導を受けることを義務づけ、結果にペナルティを課すことは、国民の健康と医療に関する考えを改善するインセンティブにはなり難いと考えられます。文化国家として個人の尊厳を重視する立場からは、健診の結果を通知して、生活習慣病の予防は個人の努力にまかせ、結果については個人が責任をとる制度とそれをサポートする対策が望ましいと考えます。

現在の医療保険制度のもとでは、企業で働く皆さんが健康を維持することは、本人および企業の双方に大きなメリットになります。

* 略歴

昭和40年 8月	東京大学医学部附属病院神経内科助手
昭和44年 9月	米国ハーバード大学医学部留学(2年間)
昭和48年 5月	信州大学医学部第三内科助教授
昭和55年10月	信州大学医学部第三内科教授
平成 5年11月	信州大学医学部附属病院院長
平成 8年 2月	信州大学医学部長
平成 9年 7月	国立療養所中部病院院長
平成11年 4月	信州大学名誉教授
平成13年 4月	国立療養所中部病院名誉院長
平成13年10月	労働者健康福祉機構 関東労災病院院長
平成20年 4月	労働者健康福祉機構参与
同上	関東労災病院名誉院長・同顧問
同上	財団法人 全日本労働福祉協会会長就任

* 柳澤信夫氏 学会活動

- 日本神経学会名誉会員 (元理事長)
- 日本内科学会名誉会員
- 日本臨床神経生理学会名誉会員
- 日本認知症学会名誉会員
- 中国河北医科大学名誉教授
- 米国神経学会会員
- ベルギー王立医科学アカデミー会員

* 公的役職

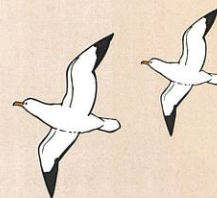
- 厚生労働省 疾病・障害認定審査会会長
- 法務省 東京地方裁判所民事調停委員、同専門委員
- 長寿科学振興財団理事
- 国立身体障害者リハビリテーションセンター運営委員

そのような視点で当協会は、定期健康診断業務の内容、結果の正確で迅速な通知、フォローアップなど目的に沿って業務を改善する対策を常に工夫しております。関係者の皆様の御指導、御助言をお願い致します。

また、特殊健診や環境測定も、安全な職場環境の維持や業務関連疾患の予防のために、今後も重要な事業と考えられます。

勤労者の健康維持は、我が国が健全な文化国家として持続し続けるための大きな鍵と言えましょう。当協会はそのために全力を尽くす所存であります。

どうぞよろしくお願い申し上げます。



国際NGO

「国境なき医師団」に参加して

医師 西野 るり子



スーダン、難民キャンプ診療所、産婦人科検診

私は2002年秋から協会で健診の仕事をさせていただいております。昨年の12月から3ヶ月間お休みをいただき、スリランカの紛争地域でボランティア医療活動をしてきました。

私が参加した「国境なき医師団」は1971年にフランスで設立された国際的な民間の医療・人道援助団体です。世界の紛争地や災害地で一般市民に対する医療活動を行い、その中立に徹した人道援助に対し1999年にはノーベル平和賞が授与されました。現在世界70カ国で3000人の医師・看護師ボランティアが活動しています。

私は2003年のスリランカ（今回派遣地域とは別の場所）を皮切りに、アフリカのスーダン、ソマリア、そして今回のスリランカで4回目の参加です。産婦人科医として、難民キャンプの産婦人科診療所での外来診察や紛争地の病院での手術・分娩・産科

合併症の治療などに携わってきました。

今回の活動地は、25年以上も続く内戦のため、医師がいなくなってしまったスリランカ北部の病院でした。この地域は2005年「インド洋沖地震による津波」でも大きな被害を受けています。

私は産婦人科医師として手術や分娩、外来や入院患者の治療をしました。チームはフランス人外科医・アメリカ人麻酔科医・オーストラリア人看護師そして私と、世界各国から来ているボランティア達で構成されます。さらに現地スリランカの看護師や助産師…文字通り世界中の人と協力しながら働くこととなります。

日本と比べようもなく設備も物資も不足という状況で、帝王切開などの緊急手術をすることは大きなチャレンジでしたが、無事赤ちゃんが生まれた母親から、現地語で「先生ありがとう！」と涙ながらに

感謝されると本当に嬉しかったです。

このような活動内容をお話すると、「当協会の仕事とは何の関係もないわね」と思われるかもしれませんが、それは違います。検査器械や診察設備の全くない難民キャンプで、診療所を立ち上げる時、私があるべき姿としてイメージしたのは、どこでもあつという間に健診会場にしてしまういつもの業務、限られた時間とツールで大勢の人をシステムティックにスクリーニングできる効率的な健診システム…

でした。現地の人達だけではなく、チームメートのアメリカ人やヨーロッパ人からも、「すごい、さすが日本人！」と言われましたが、それは高度医療機器の使い方を知っているからすごいのではなく、少ないツールを活用して効率的な仕事をするに対する賞賛でした。日々の当協会の健診経験が役に立ちました。長期のお休みをいただいたことも含め、このような貴重な経験の機会を与えていただいた協会に感謝しております。

活躍の ひとこま



スリランカの病院で帝王切開後の母子と



スーダン難民キャンプの中で女性たちと



スーダン難民キャンプ診療所で診察



スーダン難民キャンプの子供たち

旗の台健診センターリニューアルのお知らせ

企画部 齋藤 弘



平成20年4月から協会が実施している労働安全衛生法による健康診断に加え高齢者医療確保法（40歳～74歳に適応）による健康診断（特定健診）にも取り組みます。

特定健診の実施にあたっては、健康保険組合は健診の実施状況や予防効果などを評価し、健診結果は今までの健康診断の結果と特定健診の結果の2つになります。弊協会としてもこの2つに対応すべく準備を進めております。

特定健診の特徴は「生活習慣病の予防健診」という点にあり、メタボリックシンドロームに着目し、その要因を改善することを支援する「特定保健指導」が重要な役割を果たすこととなります。また、この特定健診は被保険者（本人）だけではなく、被扶養者（家族）にも適応されます。弊協会は、その対応の第一歩として、「特定健康診査・特定保健指導」に対応できるよ

うにと、ご家族等の受診をも考え、健診センターの改装に取り組むことといたしました。改装のコンセプトは、「明るく・気持ちのよい」を考えております。

「協会を受診してよかった。」「保健指導はわかりやすかった。」等々、



何か一言、うれしい言葉を聞くことが出来ることを望んでの取り組みでございます。そしてお帰りに「また次回（来年）もよろしく。」と受診者様よりのお言葉伺うことが出来ましたら……と思っております。

また、改装という目に見えることだけではなく、協会職員全体の質の向上にも心がけてまいります。

改装内容は以下の通りになっております。

待合室・更衣室の充実、女性受診者に優しい配慮・配置などに気を配っております。更衣室は、収納を含めゆとりあるスペースとし、そして女性受診者には明るい婦人科専用の診察室などを考えております。

ご家族・主婦層の方々をターゲットにリピーターを期待しての改装コンセプトです、受診後、ご意見がございましたら何なりとお申し付け下さい。前向きに対応できることは「すぐやる」ということも考えております。



職員一丸となって健診センター事業を盛り上げ、受診者様にとってよりよい健診センターを目指してまいりますので皆様の受診をお待ち申し上げております。



各地巡回健診先での 名所名跡、特産品の紹介コーナー 茨城県牛久市

第一回目となる今回は本部より春季、秋季共出張にて行く茨城県牛久市にスポットを当ててみたいと思います。

茨城県の南部に位置するこの牛久市は、圏央道や隣接するつくば市にTX（つくばエクスプレス）が開通したこともあり、出張の度に色々なお店や大規模マンションが出来、町の景観も毎回のように変わり、これからも出張の楽しみが多い町であると思います。

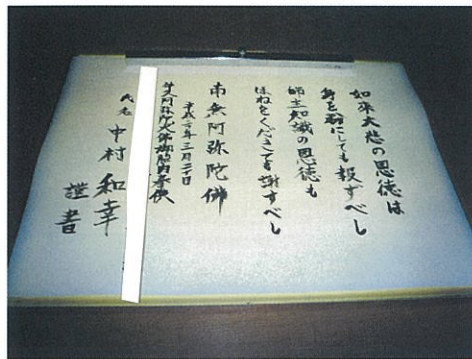
観光 スポット

その1・牛久大仏

大仏といえば、まず奈良東大寺や鎌倉高德院を思い浮かべる方も多いと思いますが、この牛久大仏は実はギネスブックにも公認される世界最大の青銅製の立像大仏なのです。

全長は120M、顔の大きさは20M、手のひらでも18Mの大きさを誇り、更には大仏胎内のエレベーターに乗ると、地上約85M（だいたい胸部位）まで行けるといふものでした。

また、その胎内には写経も出来るコーナーもあり、参拝記念



にとチャレンジ！とても心落ち着くものでした。

近年写経により、脳の活性化、心と体の健康とも言われておりますので参拝の機会には是非おすすめです。



観光 スポット

その2・シャトーカミヤ

続いてはJR常磐線牛久駅近くにあるシャトーカミヤは日本のワイン発祥の地とされます。こちらは資料館、ビアレストラン、ワインショップ、バーベキュー施設などがあり、現在ワインの観光施設として開放されている所です。その歴史は約1世紀に及び、明治36

年に本館が完成しました。

創設者神谷伝兵衛により日本で最初の本格的醸造場としてオープンしました。ブドウの栽培から醸造、瓶詰めまで全ての工程を行うことにより、資料館ではその歴史についてふれることができる施設です。

おみやげとしてシャトーカミヤ1番人気のワイン（2004年の赤ワイン）を購入して、早速飲みましたが、やはり実際その歴史について目で見えて感じたことを思いながら飲んだので、ワインに詳しくない私でもおいしく飲むことが出来ました。

ショップでは他にワインケーキや地ビールなどもあり、お酒（特にワイン）好きな方には実際行ってみる価値は大いにあると思いました。

業務部 中村 和幸



協会ニュース

★デジタル消化器健診車の整備★

(財) JKAより助成のデジタル消化器検診車



財団法人JKAの競輪補助事業協力により、2008年3月にデジタル消化器検診車、18号車を整備いたしました。当協会で作成した4台目のデジタルカメラシステム搭載消化器検診車です。従来型検診車より撮影スピ

ードが早く、スムーズなレントゲン撮影が可能です。また、X線発生装置が2台搭載されており、胃部撮影と胸部撮影を同時に行うことができます。

健診車詳細：全長1,060cm 全幅249cm 全高325cm
総重量16,100kg 総排気量9,830cc



財団法人 全日本労働福祉協会

本部	〒142-0064	東京都品川区旗の台6-16-11	TEL	03-3783-9411(代)	URL	http://www.zrf.or.jp/
第二ビル	〒142-0064	東京都品川区旗の台6-33-9	TEL	03-3786-5360	E-mail	data_zrf@zrf50.com
大森事務所	〒143-0016	大田区大森北1-18-18 NJビル	TEL	03-5767-1711		
東海支部	〒457-0044	名古屋市南区柵下町2-4	TEL	052-822-2525	URL	http://www.zrf.jp/
			E-mail	fukushi@zrf.jp		
東海診療所	〒450-0003	名古屋市中村区名駅南1-27-2 日本生命笹島ビル6階	TEL	052-582-0751(代)	E-mail	zrf-cli@jg8.so-net.ne.jp
長野県支部	〒381-0022	長野市大字大豆島字中之島3223	TEL	026-222-5111(代)	E-mail	kenkou-n@io.ocn.ne.jp
東北支部	〒990-0853	山形市西崎49-6	TEL	023-643-6778	URL	http://www.zrf-touhoku.jp/
			E-mail	zennichi@poem.ocn.ne.jp		
茨城県支部	〒319-0209	笠間市泉1615-1	TEL	0299-37-8855	E-mail	zrfiba@vega.ocn.ne.jp
群馬県支部	〒370-0018	高崎市新保町1560-1	TEL	027-350-1777	E-mail	zrf-gun@earth.ocn.ne.jp
青森県支部	〒030-0921	青森市原別1-2-35	TEL	017-736-8955	URL	http://www.zrf-aomori-kenshin.jp/
			E-mail	zrfaom01@giga.ocn.ne.jp		
三重県支部	〒514-0006	津市広明町112-5 第3いけだビル2階	TEL	059-222-1081		

健康のひろば

発行 2008年Vol.2 (非売品)
編集及び 財団法人 全日本労働福祉協会
発行者 健康事業部 健康企画課

発行所 財団法人 全日本労働福祉協会
〒142-0064 品川区旗の台6-16-11
TEL 03-3783-9411(代) FAX 03-3783-6598
URL <http://www.zrf.or.jp/>